

審査員からのコメント

「古着」という切り口に高校生らしい「勢い」を感じた。近年、アパレル業界における廃棄の多さが問題視されるようになっており、そうした意味でも古着の利活用には可能性を感じる。また、机の上の議論に終始せず、自分たちでイベントを企画し、実践に結びつけているところも評価点である。ただし、取り組みを、特定の古着店の経営改善だけでなく、まち全体の活性化に結びつけていくための論理展開について、なお掘り下げる余地はあるように思われる。また、イベント時の集客を平時の集客に結びつけていくための仕掛けづくりも期待したいところである。

